



JEG ニュースレター 185号

www.jegschweiz.com

2022年12月9日

小さな証

最愛の妻を亡くし、失意のどん底にいた筆者に、生きよと温かく語りかけた主と主のしもべたち。新しい人生が今始まる、。
P2



神様への贈り物

激動のこの一年を静かに振り返る時、悲喜こもごもの様々な思いが去来します。感謝、恵み、祈りの応え、そして希望を神様への贈り物として綴りました。
P4-P6



日出づる国から

7年前、ウィーンから帰国され大阪府泉佐野で牧会される高木牧師、そして東北・大船渡で短期宣教師として福音を伝えるヨハナさんから便りが届きました。P7-P8



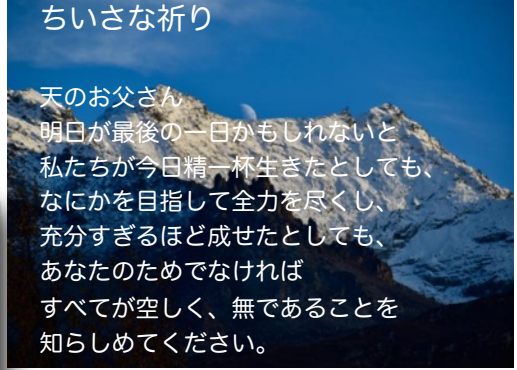
Coffee Break Time

ウィーン発、バーチャル・カフェには、国を越え、年齢を越え、神様を愛する人、神を知りたい人が気軽に集います。 P9-P11



ちいさな祈り

天のお父さん
明日が最後の一日かもしれないと私たちが今日精一杯生きたとしても、なにかを目指して全力を尽くし、充分すぎるほど成せたとしても、あなたのためでなければすべてが空しく、無であることを知らしめてください。



すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。

ヘブル12:11

私たちは日々神様からの無償の贈り物の中で活かされています。与えられる、もてなしを受ける、贈られる、愛される、それらにすっかり慣れきった私たち、。

これからは、神様になにをお返しできるか、どんな感謝の贈り物ができるか考えてみます。どんな些細な贈り物でも神様はにっこり笑って受け取ってくださるにちがいありません。



アッペンツェラーランドの晩秋

ちいさな証

神様はいつも私の近くに

島 延之

スイス日本語福音キリスト教会



私は今から51年前に日本から、船、汽車、飛行機に乗りモスクワ経由でドイツに来ました。日本ではピアノやチェンバロを作る会社で働いていましたので、いつかは本場のドイツで昔からの伝統的なピアノ作りを勉強したいと思っていました。幸運にも働く所や専門職業学校も見つかってドイツに住む様になりました。Meisterschuleでは将来、私の妻になる人と出会い3年後には結婚しました。私達は2人の男の子に恵まれ、長男YUKIOは日本人と結婚をし、3人の子供に恵まれ、次男YAMATOはドイツ人と結婚し2人の子供に恵まれました。

4年近く前に原さんご夫妻から聖書を一緒に読んでみませんか？と声がかかりました。スカイプでやるので、どこにも行かないで自宅で読めます。ああ、それなら出来るかも知れないと思い、「はい、よろしくお願いします。」と。

初めの一回目は、2019年2月初め、原さん宅でスカイプの使い方から教えてもらい、私はまだ自分の聖書を持っていなかったため憲二さんの分厚い聖書を借りました。それは、私が読む初めての聖書でした。その日から憲二さん、しのぶさん、チェコの閑恵さん達と一緒にデボーションが始まりました。聖書の中の創世記1章から読みましたが、とても理解しにくい箇所が沢山ありました。しかし優しい兄姉たちに説明してもらい、また、支えてもらいながら学んでいきました。

憲二さん、しのぶさん、閑恵さん、千恵子さん達は、毎週火曜日の朝6時から、「みことばの光」を使ってデボーションを始めていました。そのグループに入れるようになったのは私が聖書を読み始めてから7か月後のことでした。千恵子さんはとても明るい方でポジティブな心をもって聖書を読んでおられ、彼女は召される直前まで私たちと一緒にデボーションをしてくださいました。彼女と共にデボーションが出来たことは本当に感謝です。すばらしいクリスチャンの姿を見せて頂きました。神様、ありがとうございました。

そして昨年9月に48年間いつも一緒に暮らしていた最愛の妻が亡くなりました。突然なことで私は何も手につかず落ち込んでしまった日々でした。その時は長男の家族、次男の家族たちが来て、いろいろな事で私を支え助けてくれました。このような私の家族を与えて下さった神様に感謝します。何日か後にデボーショングループのみなさんが来てくださって妻の墓の前で賛美歌を歌い、お祈りしてくださいました。

また、教会に行くと教会の皆さんが私のために、お祈りと励ましのカードを下さいました。その日は私の近くで神様が声をかけて励まして下さったと思いました。家に帰り神様に賛美を

し感謝でいっぱいでした。「ありがとうございます。」とお祈りしました。次の朝から毎日声を出して神様にお祈りが出来るようになり、今まで言えなかった私の悩みや、生前妻が望んでいたのに、やってあげられなかった事、昔あったいろいろなことなどを想い出しました。それは、私の罪の告白でした。

私はもう20年近く前に原さんご夫妻から家庭集會に誘われました。その時は、今忙しいので、と断りました。その後、何回となく誘って下さったのですが、いつも断っていました。それは今思えば忙しいことを理由に私は神様との関係を拒否していたんです。私は自分に罪のあることが分かりました。「神様、どうぞ、私をお赦しください。」とお祈り出来るようになりました。その後、だんだんと私の心が癒されるようになってきているように思いました。私は今、神様に愛されていると気づきました。神様はいつも私の近くにいてくださいました。

そのような事を考え、もう少し前に進みたく思い、私は洗礼を受けるだけの人間になっているかどうか分からなかったので、日曜礼拝に行く車の中で洗礼のことを憲二さんに聞いてみました。彼はマイヤー先生に一度、話してみたら？と言われ、礼拝の後でマイヤー先生にお話ししました。



マイヤー先生のおかげで今年の4月初めから「基礎の学び」を佐々木さん、磯村さんと2週ごとに一回スカイプで学ぶことが出来る様になりました。マイヤー先生は、一つ一つ丁寧に実に奥深く教えて下さいました。マイヤー先生が私に沢山の時間を割いて下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、一緒に学んで下さいました。佐々木さん、磯村さん、ありがとうございました。我がデボーショングループの人たちと共に4年間続けてみことばを通して神様のことを学ぶことが出来ました。

このように神様が、私を愛し導いて下さったことを感謝します。コリント人への手紙第一、15章3、4節ではパウロは次のように書いています。『私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと』と書かれています。

私はここで宣言します。イエス・キリストは聖い方で正しい方で愛の方です。私は罪びとです。イエス・キリストの十字架の死は、私の身代わりでした。三日目にイエス・キリストはよみがえりました。私はそのことを信じます。イエス・キリストを私の主として、救い主として受け入れます。このように導く先生や友を与えて下さった神様に感謝します。

私は神の子供として、まことの羊飼である主イエス・キリストの御霊に導かれて義を、永遠のいのちの道を歩んでいけるようにと願います。"すべてを主イエス・キリストにゆだねて" アーメン

1、洗礼式ならびに創立29周年記念礼拝



11月27日のスイスJEG創立29周年記念礼拝のなかで、イエス様を信じて救われた島延之兄の神様への応答と公の場での信仰告白ならびに感謝のしるしとしての洗礼式が行われました。

今年4月から受洗準備の学びを続けておられた島兄弟は、主イエス・キリストの恵みの意味、十字架の御業の意味を、素直な心で知り、受け入れ、自分のいのちを主にゆだね、信仰を告白するようになりました。何よりもまず、主に感謝します。マイヤー・マルチン牧師

(島延之兄の証はニュースレターに"小さな証"として掲載されています。)

また、この日、スイス日本語福音キリスト教会は創立29周年になりました。日本と日本人を愛したスイス人宣教師と日本人キリスト者によって建てられたこの教会を、慈しみを持って主は導き、恵みの内に今日まで祝福してくださいました。

礼拝後、スイスJEGがサポートする日本ならびに欧州の各宣教師からのビデオによるメッセージが伝えられたあと、スイスJEGの29年を振り返ってのライドショーが上映され、教会の歴史を感謝をもって振り返りました。<https://www.youtube.com/watch?v=bbprOVcm6ml>

2、後半期のゲストメッセンジャー

10月9日は、元リーベンツェラー宣教団宣教師、オックルト牧師ご夫妻をお迎えして礼拝を捧げました。牧師ご夫妻は、2011年の東日本大震災による原発事故で、福島原発に一番近かった大熊町福島第一聖書バプテスト教会（佐藤彰牧師、現在いわき市）の避難者全員のために奥多摩福音の家を1年間も提供してくださいました。



ご夫妻は原発事故で多くの宣教師が母国に帰ったあとも、日本に踏みとどまり、日本と日本人を愛して多くのご奉仕をしてくださいました。私たちはご夫妻に深い感謝の念を持っております。



スイスJEGのスナップ

3、スイスJEG主催第4回聖地旅行が来年催行されます。

スイスJEG主催第4回イスラエル聖地旅行が来年2月13日より21日まで、19名の参加予定者でもって催行されます。

11月28日には、オンラインでマイヤー牧師による準備学び会が持たれました。なお、第2回目は12月12日(月)、第3回目は来年1月30日(月)に準備会が行われます。参加予定者ならびにイスラエルと聖書に関心を持たれる方のご参加を歓迎致します。

なお、イスラエル旅行の動画、マイヤー牧師によるイスラエル関連のレクチャーはスイスJEGのホームページのイスラエル旅行のサイトでご視聴いただけます。<https://cms.e.jimdo.com/app/s6b4a940f6d6016f5/p7c5f05f1fe026a76?cmsEdit=1>



4、欧州教職者研修会が開催されました。



<教職者研修会参加者>

11月8～11日は、毎年行われている欧州日本語教職者研修会でした。今回は、ウクライナで1998年から宣教なさっている船越先生ご夫妻が参加され、大変貴重な報告を聞くことができました。

戦争が始まった時、教会員の方々が「先生、私たちはどうしたらいいでしょう。」と聞いて来られ、牧師として、重要な決断を迫られたとのこと。どんなにか重圧の中を生きて来られたことでしょうか。先生方が牧会する教会の若い方の中にも戦死なさった方があるとお聞きしました。「戦争が終われば問題解決というわけにはいかない。国土の問題、生活の問題、心の問題はずっと続く。忘れないで祈り続けてほしい。こういう時だから人は福音を必要としている。」とおっしゃっていました。彼らは今もウクライナのオデッサで牧会を続けておられます。

(井野 葉由美 ミュンヘン日本語キリスト教会牧師)

5、第40回ヨーロッパ・キリスト者の集いの第一信が発行

8月3日から6日まで今年と同じ会場の南独シュトゥットガルト郊外Schwäbischで開催される予定の第40回ヨーロッパ・キリスト者の集い(テーマ:キリストを宣べ伝えよ～集い40年目を迎えて『あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい』マタイ28:19)の第一信が発行されました。このたびの集いもスイス日本語福音キリスト教会、フランクフルト日本語福音キリスト教会、南ロンドン日本語キリスト教会、そして新たに加わったオランダ南部日本語キリスト教会から召された5人の実行委員によって、これからの準備作業が行われます。

6、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、森ゆり空レタ配達人、「宣教の声」が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄弟は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。



「神様への贈り物—小さな光が繋がって」

生きた供え物としてお捧げします

矢部 晶宏

オーストリア在住 OM宣教師



「私たちはいつも神さまから多くの恵みを受け取っているが、感謝をし忘れることがある。このニュースレターを通して、神さまに心のこもった贈り物を捧げたい」松林さんからの寄稿依頼に、すぐにガッテン！つたない執筆ですが、主への感謝を心を込めて綴ります。

妻のがん治療2年目、「神さまから多くの恵みを受けている」ことを身にしみて実感しています。スイスJEGのたくさんの方々からも主であって多大なサポートを賜り、この場をお借りして感謝をお伝えします。

宣教地での闘病生活を通して、人は、創造主が息・命を与えてくださらなければ、生きることができない真実（イザヤ42:5）を学んでいます。今こうやって生きていること自体が主の恵み。主の十字架と復活の恵みに与り、衣食住が与えられ、信仰の家族が与えられ、さまざまな祝福が注がれている。闘病、物価高騰、円安、不十分なドイツ語力にも拘らず、ここで福音宣教に携われること自体が神さまの奇跡です。詳しくは、<https://www.yyministry.com>に証しています。

その恵みと祝福を沈思し、どのように「神さまに心のこもった贈り物を捧げ」られるかを熟思する時、心に浮かぶ聖句は、ローマ12章1節。自分自身を「神に受け入れられる、きよい、生きた供え物」としてささげること。

僕は仮面ライダー、戦隊ヒーロー、ウルトラマン世代です。正

義のヒーローたちは決まって、敵にやられそうなギリギリで逆転勝利を得ます。そこに少年たちは釘付けになるのです。イエスさまは私たちの罪のために、私たちを救うために来てくださいましたが、（一見）完全にやられてしまった。しかし！、死を打ち破りよみがえられ、人類最大の問題、罪と永遠の死の問題を完全に解決してくださいました。ギリギリでの逆転勝利より、完全にやられた後での復活大逆転勝利に僕の心ははるかに高揚するのです。

世界中の富を集めても買うことのできないPricelessなイエスの福音。私たちキリスト者はこの福音を宣べ伝えるために、救われ、召され、恵みと祝福を溢れんばかりに受けています。この神の愛と恵みに対する最も合理的な応答は、自分自身を神に受け入れられる、きよい、生きた供え物としてささげることだと思ふのです。

「父なる神さま、イエスさまを感謝します。主から受けているすべての良いものを感謝し、私自身を生きた供え物としてあなたにおささげします。どうぞ主のご栄光のために用いてください。」



神様の奇跡

瑛美

スイス日本語福音キリスト教会

2022年は本当に不思議な年でした。信じられないくらい沢山の神様の奇跡が起き、来年から日本に行けることになりました。

全く繋がりのなかった日本の会社が私に連絡してくれて、全く経験と知識がない分野の仕事にも拘らず、私に仕事の依頼してくれました。

日本行きに関して今年起きた神様の奇跡をざっと数えると、今の時点で43個もあります。十年間のスイス滞在中にイエス様と出会い、三年間で日本へ行く準備を神様がしてくださいました。神様は真実な方です。

神様への贈り物

太田 まり

ハノーファー聖書の集い

いただいた原稿募集のメールを読んでこんなわたしにできる神様への贈り物とは何かを考えました…。そして、それは今日も無償の愛で私を愛してくださっている主に感謝することだと気づきました。

毎日、ほんの少し時間をとって主に感謝をプレゼントして行こうと思います。そのことに気づかせていただきありがとうございます。

「賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」

天国の扉

馬場晶子

ロンドンJCF



私の好きな曲の一つに「人生の扉」という竹内まりやの歌があります。12年前に57歳で天に召された義弟が病院への往復の車中で聴いていた曲です。「満開の桜や色づく紅葉をこの先いつか何度みることになるだろう」というフレーズは人生の終盤期に入った私にも大いに共感でき

るものがあります。義弟がどのような気持ちで聴いていたのだろうと思うと今でも涙が出てきます。

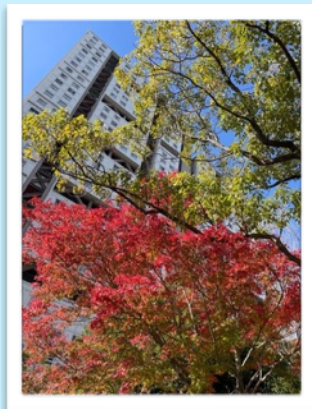
2022年今年はこれまで以上に多くの身近な友人、知人を天国に見送った一年でした。私たちの住むイギリスではエリザベス女王が9月8日96歳で、在位70年でこの世を去りました。身近なところでは主人の幼友達がある夜突然死でこの世を去りました。72歳でした。日本の教会の青年会の仲間であった友人は一年間のがん闘病生活の末に亡くなりました。イギリスの教会の友人は高名な外科医でしたが、わずか半年の闘病生活で召されました。いのちの長短、この世の功績に関わらず私たちはいずれこの世を去ります。

私たちは健康である時は物質的な必要を満たすことで満足しがちですが、死を前にするとき人はより深い永遠の問題や人生の究極の目的を考えるようになります。主人の父も先の義弟も自らの死を目前にして信仰を持ちました。迫りくる死の恐怖から解放され、永遠のいのちの希望を持つものとされました。キリストを信じ、キリストのいのちによって義と認められた私たちにとって、もはや肉体的死を恐れる必要はなくなりました。

「人生に意味などないというものがいるが…人生は生きる価値がある。長い旅路の果てに輝く何かがあるさ。」と歌は終わっています。私たちクリスチャンは人生の末に輝くものが何であるかを明確に知っています。罪の結果による死の問題の唯一の解決方法を知っています。この素晴らしい事実を多くの人々に伝えていきたいと思われた一年でした。なぜなら死は天国の扉、永遠の人生の始まりにすぎないからです。

1 コリント15:22

「すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。」



故郷芦屋の紅葉

聖書の世界を旅して

金子進

オスロJCF



「ノアの墓」がトルコ東南部のCizreという町にあり、チグリス川が町の中央部を流れている。町の背後には高い山脈が東西に伸びていてトルコ、シリア、イラク、イランの国境沿いでクルド自治領の最北に当たる。この周辺は立ち入り禁止になっており、3か所の検問で交渉したが入れなかった。

私たち（運転手も含め）を入れる場合には1台のジープに重装備した兵士6人が同行しなければならず、軍隊から許可を得るには最低3日はかかると言われました。今回は諦めました。Gizre町の隣にSirnakという町があり、この街のSirnak大学は歴史考古学で有名です。多くの研究者を輩出しています。

偶然にもその第一人者であり、ノアの研究に熱心なDr. イブラヒム・バズ師と大学で面会できました。1時間近く意見を交わし、記念に箱舟の模型と「ノアの洪水とジュデイ山」と題した第2回目のシンポジウム資料本をサイン入りで贈呈していただきました。何と700ページもある本でした。バズ師はこのシンポジウムの組織委員長でした。

ゲベクリテペもカラハンテペも私の40年近い探索旅行で目にした最古のものでした。ネバリチヨリは現在ダム湖に沈んでいて模型がUrfaの考古学博物館に展示されている。殆どの学者が1万年前に遡るとの見解である。人類史や聖書歴史に大きな影響を及ぼすことは間違いない。

神様への感謝の手紙

井ノ上歌歩

スイス日本語福音キリスト教会



神様、この一年、学んでいる音楽の世界を一気に広げ、音楽をする大切な仲間たちをたくさん与えてくださったことを、感謝します。わたしの歌はまだただだけれど、神様に信頼して、神様に向かって、これからも歌い続けたいです。

3年目に入った留学生活。最初の2年はJEGの方々にとたくさんおもてなしを受け、霊肉ともに支えてもらいっぱなしだったけれど、この秋からは、友達を家に招いて、ご飯をご馳走するおもてなしの側へ時々回ることができていることにも、感謝します。

また新しく始まる一年も、主を第一に、主に与えられた“隣人”を愛して、心から神様を賛美できるよう、祈りつつ歩めますように。あなたの御名を心から賛美します。ハレルヤ！

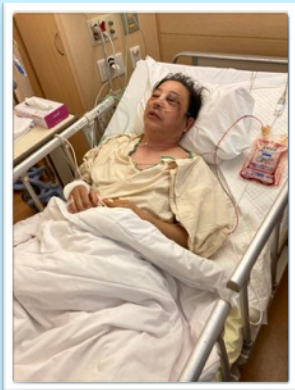
神様に栄光を！！

”事故を通して変えられた自分”

今村泰典

スイス日本語福音キリスト教会

この9月から10月にかけて私は工藤篤子姉と賛美コンサート、その後、イタリア人歌手、フランス人チェンバリスト達とのコンサート、更に8回のマスタークラスを行う計画を立て9月21日に帰国しました。



9月24日工藤姉との賛美コンサートを準備万端の状態に臨むべく、リハビリ後、コンサートに向けて身体を整える為に、ここ数年来通っていたマッサージに行きました。いつもは電車を使って行っていたのですが、その日は健康の為に電車で2駅(3.8km)、歩いて帰ることにしました。

夜中気が付くと、私はベッドに横たわっており、身動きが取れない状態で、一瞬状況が全く把握できず、何故病院の集中治療室、また何故そこに義母と義兄がいるのか、すべてが謎で理解できず、目をパチクリしていると、私が事故を遭い、ここに救急車で運ばれた事を伝えられました。

その時は、完全に麻酔が効いていて、全く痛みがありませんでした。診断によると、骨盤が折れているので、歩けるようになるまで少なくとも2か月はかかり、また右手の小指、頭蓋骨、肩を脱臼した上に骨折しており、計10か所の骨折、4本のボルトが入っていて、少なくとも3か月以上は病院から出られないという事、演奏はそれ以上にもっと無理で当面の予定は全てキャンセルせざるを得ない事を悟りました。

ああ、困った、という思いが頭をよぎりました。けれども、すべてのコンサート、マスタークラスを失う悔しさよりも、私の心に「神様への感謝」が沸き上がりました。「生きて良かった」という感謝の気持ちと、これでじっくり神様と向き合う時間が取れると言う安心感が与えられたのは全く不思議でした。

何故なら、今までの自分ならば、どうして私がこの様な目に会わなければならないのだろうか、一体私が何をしたというのだろうか等、ネガティブな考えになっていたと思いますが、今回に限っては全くその様な思いがありませんでした。

私は自分の状況を入院中にフェイスブックに投稿し、皆様にお伝えすると、世界中に散らばっている友達が色々な言語

で激励や、祈りのメッセージを送ってくれました。神様はこれだけ私の事を思い、案じてくれている人々がいる事を私に教えて下さったので、私は今まで以上に神様、そして人々の愛を感じる事ができました。この事でとても励まされ、当初2か月と言われていたのが3週間で歩ける様になり、またスイスの保険会社がスイスから看護師を一人派遣してくれ、その付き添いのもと、10月21日に無事スイスに戻る事が出来て、近所のオルテンの州立病院に入院する事になりました。

その後、とても良い理学療法士が与えられ、ほぼ毎日セラピーを受けることができ今に至っています。先週7週間右手小指に入っていた針金を除去しましたが、骨折した小指は、レントゲンを見ると曲がったまま繋がっているではありませんか。しかし、右手の小指はリュート演奏には使わない為、支障はありません。またピアノの鍵盤はこのままで弾けそうなので、これも神様の憐れみです。

今、正直に思えるのは、この事故を通して神様の栄光が私に現れる様になさったのではないのでしょうか。そんな馬鹿な、と思われる方も多くいらっしゃると思います。私はクリスチャンになってからでも、自分の力で（神様に頼ることなしに）まっしぐらに走ってきたように思います。即ち自分の努力を第一優先にしてきたと思います。そして努力できる自分を誇り、また勝ち得た事をも誇ってきたのではないかと思います。そこでは、得てして神様はなおざりになりがちです。



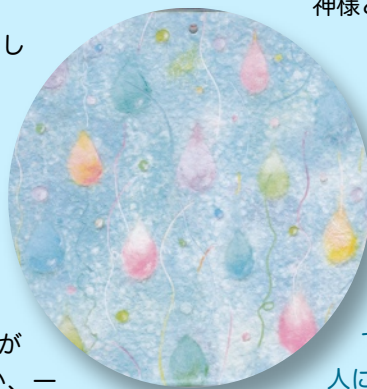
しかし、事故に遭って以来この8週間、私には神様と対話できる精神的余裕が与えられました。病院のベッドに横たわってできる事は唯一スマホに入っている聖書を読むこと、神様と対話する事でした。

一つ思い出した聖書箇所があります。

『弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」

イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」(ヨハネの福音書 9章2～3節)』

今、私は今回の事故を通して、私が一層強く主により頼むことができる様に、また心からの賛美ができる自分に変えて下さいとお祈りしています。今までの皆様のお祈りに感謝するとともに、完全に社会復帰できる様に引き続きお祈りをどうぞ宜しくお願い致します。



二つの歌

「主は良いお方」と「I Am Loved」

永井敏夫

東京都町田市

わたしは時々賛美を口ずさみながら、食事の用意をしたり、食器洗いをする。いろいろな賛美を歌うが、今年歌う回数が一番多かったのは「主は良いお方」という賛美だ。<堀井ローレンと長沢崇史ペアの曲>この曲は、詩篇103：11-2を歌っている。

「わがたましいよ、主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ、聖なる御名をほめたたえよ。わがたましいよ、主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」

詩篇103：1-2

このみことばの「何一つ」からは、一つも例外なく、一つも当たり前前と思うことなく、どんな小さなことでも、という表現などが思い浮かぶ。「忘れるな」には、思い出しなさい、記憶しなさい、心に刻みなさいという意味を想起する。



長野県安曇野にて

今年の10月11日は、妻と結婚してから40周年の日だった。10月下旬、子供たちの予定が合い、10人が集まり、レストランで祝会をした。その際に、妻と私は彼らを前に、神に、そして子供たち孫たちに感謝しながら、この「主は良いお方」を歌った。これからも、ずっとずっと、主が良くしてくださる神と信じつつ、生きていきたいと思わずにいられない。

英語の賛美で今年一番良く聞いた曲は、「I Am Loved」で Mack Brockという人が歌っている。この賛美は、「父なる方は、両手を広げ、私をありのままに、迎えてくれる」（意識）というフレーズから始まる。「父なる神の目には、失望も恥などなく、ただ愛する息子だという誇りがある。何も隠さず、測ることもせず、父なる神は、私が息子であるということだけを一番大切にしている。」（意識）この曲を聞きながら、今年の自分の姿勢はどうだったかと私は振り返っている。

神にとっては私との間には1ミリの距離も無く、私を両手でしっかりと抱きしめておられることを思う。父なる神は、私の存在そのものを喜んでおられ、愛にあふれる眼差しを今日も注いでくださっている。



日出づる国から

あなたのみ言葉は私の足の灯

高木攻一

泉佐野福音教会

(元ウィーン福音キリスト教会牧師)

白衣の医師に「これは進行性の癌です。」と内視鏡の鮮明なカラー映像で癌告知された瞬間に、正直わたしは内心大変ショックでした。ウィーンから大阪に来て8年目のことです。

癌は、肛門からおよそ10センチの直腸に発症、ステージ2以上、腸

を塞いではいない、腸膜を突き抜けて外に飛び出しているかどうかは開腹してみなければ分からない、癌の転移を避けるため関係するリンパ節を含め、20センチ程度切除する、手術は、効果的で回復の早い腹腔鏡下手術で実施する、6月21日には入院、23日に手術を実施する、一週間程度の入院となる等々、りんくう総合診療センターの外科部長の説明は、その道の専門家らしく大変説得力があり、即同意サインを求められ、治療計画があつという間に決まってしまいました。

癌告知のその夕べのことでした。主が私の内なるものを激励するお言葉をくださいました。「**神の業がこの人に現れるためである**」（ヨハネ9章3節）それは、この私の癌発症でさえ神の目的が必ずあるとの確信を得させるものでした。結果的には、5日程度で退院できるとした医師の見立てとは裏腹に、37日間の長逗留となり、点滴栄養補給に終始した結果、それでは

くてもやせ気味の私の体重は6キロ減で、酷い衰弱に陥りました。

パンデミックの最中、後期高齢77歳の私にとり、面会無し入院生活は厳しいものでありました。礼拝奉仕からは、10週間退かざるを得ず、職務復帰できたのは9月からでした。手術から5ヶ月を経た現在、ほぼ体力も復調し、通常の牧師職をこなすことができることは神の恵みです。それはまた、多くの方々の背後の篤い執り成しの祈りの賜物であることを覚えて感謝しております。



泉佐野福音教会

思い起こせば、2005年にウィーン日本語キリスト教会奉職を私に決断させたのは主のみ言葉、「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。」(ヨハネ15章16節)でした。10年後の2015年にウィーンを去り日本に帰国する決断を促したのも主のみ言葉、「見よ、私はあなたの前に門を開けておいた。誰もこれを閉じることはできない。」(黙示録3章8節)でした。実に私の生涯は、「あなたのみ言葉は私の足の灯、私の道の光。」(詩篇119篇105節)と詠われているとおり、主のみ言葉に導かれていたことを改めて噛み締め感無量であります。

私は神学校を21歳で卒業し、56年間牧師職を務めてきましたが、若くても老いても牧師職の真髄である「祈りと御言葉の奉仕」を、現在の任地である泉佐野市で、許される限り現役牧師として果たしていきたいと願っております。

時折、パソコンにファイルされる膨大な欧州各地でのスナップ写真を妻とめくり観るのですが、皆様のお顔を思いおこしては、懐かしい思い出を回顧しております。そして、この地上で再会することができなくとも、やがて天にてお会いするであろうことを覚えて楽しみにしているのです。

東北は岩手の大船渡から

トムセン・ヨハナ

OMF短期宣教師



気がつけば、半年の短期宣教でOMFから送り出されてやってきた岩手県の大船渡での生活もあと半分を残すのみとなりました。

ServeAsiaと呼ばれるプログラムで私は東北の小さな教会に遣わされ、そこで教会の活動をサポートし英会話授業、高齢者と交わり、礼拝でのピアノ演奏、地域の人々との人間関係を築いたりしています。主がこの地で多くの教

訓を学ばせてくださることを感謝しています。

最近、毎回のレッスンの最後に聖書の話を加えることにしています。子供たちが興味を示してくれることに驚いています。ある女の子は、私が聖書とは何かを簡単に説明した後、「じゃ、この本はすごく大切なんだね!」とコメントしてくれました。また、英語を学びたいと言っている高校生との出会いも主が与えてくださいました。

現在、zoomでミーティングをしています。こちらも、レッスンの最後に聖書の一節を短く紹介し、解説をすることにしています。この瞬間が種まきとなり、それが彼らの柔らかい心の土壌に蒔かれ、より集中した聖書の勉強やイエス様を信じる心を持つきっかけになることを祈っています。



ここ数週間の私の主な仕事は、新しい教会の建物の庭を掃除することでした。この肉体労働は本当に楽しいものでした。説教や讃美歌を聴きながら、また通りすがりの人に建物のことを聞かれ、挨拶することもできました。うまくいけば、そこでクリスマス礼拝を行うことができるかもしれません。

クリスマスといえば、私たちは様々なクリスマス関連のイベントを準備しています。キッズ英語クラスは12月8日と13日にクリスマスイベントを行います。24日は子ども礼拝でゴスペルの寸劇を披露し、クリスマスの意味を分かち合い、25日は私の証をシェアすることを頼まれました。今まで知り合った人たちを招待しようと思っています。お祈りをありがとうございます。



大きな祈りの課題は、神様が次のステップに私を導いてくださることです。いくつかの選択肢がありますが、賢明に選択したいと思います。

主のご降誕を心から感謝し、その恵みを覚えてクリスマスを迎えましょう! メリークリスマス!!



サントガーレン市のクリスマス・マーケットのスライドショー(4分) <https://youtu.be/8KwOSUvAK2U>

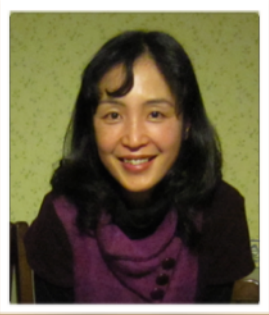
神様の温かさがふわり

緒方美知子

ウィーンリーディング教会

バイブルコーヒブレイクを思い立ったのは、コロナが始まった年です。パンデミックの到来と共に、特に首都ウィーンではとても厳しい外出規制が行われました。その結果、ひとり暮らしの私は一ヶ月以上誰とも会えない時期が続きました。その頃から家にいながら人々と繋がり、コミュニケーションをとることへの憧れが段々強く膨らみました。

心の中で私が励ましと力をいただいている神様の恵みを中心になるような交わり会ができれば良いなと思いつけていました。しかし、やはりいつものごとく自分に自信のない私はなかなか始める勇気がありませんでした。



ようやく規制も緩み、一ヶ月ぶりぐらいに友人に会いに行こうと喜び勇んだ外出先で、交通事故に遭い手術、入院、その後の車椅子生活…そんな経過をコロナ下で経験し、背中を押されるようにして始めたのが『バイブルコーヒブレイクタイム』です。

それから間もなく2年になるろうとしていますが、その間色々な方々との出会い、交流、色々な方々の助け、アドバイスに支えられながら今でも手探りの冒険を続けています。まだまだどうして良いのかわからないこともたくさんありますが、神様の温かさがふわりと流れ出るような雰囲気味わえるような、日常のストレスや忙しさを忘れてホッと一息できるような瞬間があればと思い、カフェ文化のウィーンにちなみ、バイブルコーヒブレイクタイムとネーミングさせていただきました。

色々な方々と益々神様の愛を通して繋がっていくことができたら嬉しいです。

バイブルコーヒブレイクタイムとは？

バイブルコーヒブレイクタイムとはズームを使っての月1回、一時間半ぐらいの(国境を超えての)交流会です。

毎回、色々なゲストをお招きし、バイブルメッセージやマイ・ストーリー(体験談)などを語っていただいた後、おしゃべり、交流タイムでは、参加者の方々の出番です。

クリスチャンはもとより、まだ聖書や神様の存在を知らない方々にとっても出会っていただく機会になればと思います。年齢、性別、職業を問わず色々な方々が国境を超え、時差を超え、参加してくださっています。

バイブルコーヒブレイクに、ご興味、お時間がある方はどなたでもご自由にご参加ください。下記のアドレスへメールをいただければ案内とMeeting IDをお送りします。coffebreak.wien@gmail.com

バイブル
コーヒ
ブレイク

Coffee Break に参加して

脇坂盛雄

埼玉県さいたま市

ロゴセラピーの勝田茅生先生がCoffee Breakのゲストスピーカーに招かれたとのお話を伺い参加させていただきました。その後も、緒方さんの温かいお誘いをいただき参加させていただいています。

米国留学中(2年間)近くの教会に通い、その後牧師さんが毎週自宅に来て聖書の話をしてくださいましたが、ここで、キリスト教との縁が切れました。時々キリスト教関係の本を読む程度でした。その中には知り合いに紹介され、井上洋治神父の本を6冊読みました。

Coffee Breakはまさに30年以上前のいろいろなキリスト教のことを辿る機会になっています。「すべてに出会いがある」(万物に時あり)のお話を聞いて、学生時代の彼女からのレターに「万物に時あり」の言葉があり、その時は意味が分かりませんでした。

クリスチャンは洗礼を受けたらそれでキリストの教えに従って生きることが出来るのではなく、常に聖書を人生の伴侶にする。そのために教会に通って気持ちを新たにすることがとても大切であると知りました。そして自分の心に

イエス・キリストを住まわせることができるかどうかキーになると理解しました。



学生時代に通っていた教会の方にいろいろ教えてもらいました。また疑問点を質問しました。いまから考えるとキリスト教を今の科学で判断しようとしていました。そんなことよりも、信じたいかどうか問われているのだと納得しました。信者ではないですが、考え方の中にはキリスト教の聖書がかなり色濃く入っているのを自覚しています。皆さんの発表や言葉を聴きながら、学生時代の頃に戻ったような気持ちになっています。

私の信仰を再確認する場

森 美加
ウィーン在住

私はウィーンの教会に参加していましたが、未熟ゆえに続かず、その後コロナの影響で日本に行くこともできなくなりました。そんな時にウィーンでズームによるクリスチャン集会「コーヒーブレイク」が発足しました。私の古くからの知り合いである緒方美知子さんが中心になって月に一度、世界中からクリスチャンとキリスト教に興味のある方々が集まります。

メッセージを取り次いでくださる先生方も、この会を神の祝福の場として大切に見守って下さり、お証しも音楽賛美も、深い祈りと入念な準備に支えられて回を重ねることに充実しています。私個人においてはこの会は「自分の立ち位置を知る」良い機会になっています。私は天邪鬼ですので、心を込めて語ってくださる牧師先生のメッセージや素晴らしいお証しも、その内容が素晴らしければ素晴らしいほど、反発したくなる自分が出てくる時があります。



ズームなので自分の心に集中し易いのでしょうか。問題は勿論、私自身にあります。私は一体何に囚われているのか？何が私を神の祝福から遠ざけているのか？その自分を認め、その解決されていない自分の心を主の前に提示することで、自分の信仰を再確認しています。人はそれぞれに異なった感情や考え方を持っ

ており、環境、経験も様々です。人が集まれば無意識のうちに心傷つくことも多々起こります。そこにイエスさまが来て下さり、それぞれの心を理解し、重荷を負って下さることによって、私たちに平安と秩序が与えられる様に思うのです。

必要なのはイエス・キリストを心に受け入れる事だと思います。私にとっての「コーヒーブレイク」は月に一度、私の信仰を再確認する大切な機会です。参加される方々によって捉え方や感じ方も違うと思いますが、お一人お一人がこの集會を大事にされているのを感じます。主の導きと大いなる祝福を心から祈ります。

「この福音は、あなた方が神の恵みを聞き、それを本当に理解した時以来、あなた方の間でも見られる通りの勢いを持って、世界中で実を結び広がり続けています。福音はその様にしてあなた方に届いたのです。」コロサイ人への手紙 1:6



ここに憩いがある

加藤正次
経堂キリスト集会（東京世田谷）

「ここに憩いがある。疲れた者を憩わせよ。ここに休息がある」イザヤ28：12

2020年、パンデミックが瞬く間に世界中を駆け巡り、世界中が恐怖に包まれました。私が信仰を持ったのは1969年ですからゆうに半世紀を超えています。このパンデミックでは礼拝出席もままならなくなり、これほど長期間集會に通えなくなるとは想像もしていませんでした。

これまでは台風が来ようが大雪が降ろうが、礼拝は続けられていました。です

が今回は

かりは信仰生活最大の危機感を持って、パンデミック終息と兄弟姉妹全員が集まる礼拝再開を祈り求めました。神の備えは完全完璧な方法で礼拝を続けることができたのは通信機器の普及でした。

私も高齢者の域に居るものですが、若い兄弟姉妹に教えられながら、リモート下であっても毎週の聖餐式では熱く主を讃える祈りと賛美を家庭に居ながらパンを裂き杯を妻と共に主の十字架を覚えることができました。巣ごもり中でもZOOMを通し主にある兄弟姉妹が交わることができるのは本当に素晴らしく嬉しいものです。

私の人生も枯葉の舞う冬に差し掛かり、少しずつ多くの人と交わる機会が少なくなって来ています。私がバイブルコーヒーブレイクに参加したのは10回目からでまだ新参者ですが、いろいろな方からみことばが紐解かれ、経験談をお聞きするのも楽しく、多くの方々と知りあうことができるのも私にとって喜びであり励ましをいただける貴重な時間です。



私たちはいつかこの世の重荷を脱ぎ捨てて大牧者のもとに帰る時が来ます。その時、緑なす水のほとりに憩こう羊のごとく束の間のbreakではなく、永遠の安息の場、天の御国イエス様のそば近くでrestしたいものです。

居ながらにして

内山和子

横須賀市馬堀聖書教会

ウィーンにお住いの緒方美知子さんがズームで月に一度“バイブルコーヒーブレイクタイム”を開催して下さり、私は主人とともに楽しみに参加させていただいています。毎回、バイブルメッセージや証そして賛美などがあり、豊かな霊的糧をいただけます。

10月の集会の時、松林さんの証が予定されていましたが、急に鼠径ヘルニアの手術で入院なさるかもしれないということで、その場合は松林さんの証の原稿を代読してほしいとの依頼を緒方さんから受けました。集会の前にリハーサルをするからと言われ、毎回そんなに時間をさいてご準備なさるのだと気づかされました。美知子さん、ありがとうございます。幸い入院が先に延ばされ、ご自身で証をされほっとしました。

松林さんのこれまでの人生の中で主がどのように働かれたかを丁寧に証してください、本当に主は素晴らしいと感動しました。



若い青年がリュック一つ担いで旅に出られ、神様の備えの人と外国の地で出会い、結婚に導かれ現在の祝福に満ちた家庭を築いておられるのは全て主の恵みの導きですね。主は私たち一人一人に賜物を与えてくださっています。その賜物を主の御用のために用いていただけるのは本当に幸いなことだと思います。

このコーヒーブレイクの集いのために、多くの方がそれぞれの賜物を惜しみなく提供して下さってこの集会が継続されていることを覚え感謝し、主の御名をたたえます。私たちは現在神奈川県横須賀市に住んでいてそこからの参加です。居ながらにして、各地の多くの友人たちと会うことができるのも大きな恵みです。

この集いが祝福されてこれからも続けられますように祈らせていただきます。特に心を砕いて毎回準備して下さる緒方美知子姉に、主からのお支えと励ましがありませんようにお祈りいたします。



コーヒーブレイクへのフィードバック

※「幸せは、気づき」というお話で、本当にそうだと気付かされました。この機会に少し聖書的な考えに触れ、素直な気持ちで受け取って頂けたこと感謝しています。

※パワーポイントで作られた資料や画像がたくさんあって、それが理解しやすかったです。文字の大きさも見やすく良かったです。

※色々な国の日本の方と繋がりを持ち続けてきた美知子さんの努力が実っている会だな、凄いなと言うのが正直なところです。

※コーヒーブレイクのお時間は本当に有意義で、私の世界が広がった時間でした。また、オーストリアに住んでいて、歌をやっているのにも拘らず、キリスト教に関して自発的に勉強する機会が無かったので、こうしてイースターの意味をきちんと知るきっかけが出来たのは本当に有り難かったです。

※まだまだキリスト教についての知識が希薄ですが、信仰の有無に拘らず、勉強出来るとても有意義な場だと思いました。次回も是非参加させて頂ければと思います。

※教育の質問コーナーも国々によって色々違ってとても興味深くとっても楽しかったです。



※松林さんの作られたビデオ、壮大な自然、美しい山々の映像にとっても感動しました。またマイストーリーも旅先で働きながら、旅費を貯め3年半で55カ国旅行されたということでものすごいサバイバル物語ですね。スイス女性に出会い、福祉関係のお仕事をされながら、重度心身障害者施設でもアートセラピストとして、ひとりひとりの身障者の素質を見抜き生きがいを与える作業療法士としての使命、本当に素晴らしいと感じました。

